

子どもの歌におけるオノマトペの効果と役割について

江川 靖志 中野 亮子

Effects and Roles of Onomatopoeia in Children's Songs

Yasushi Egawa Ryoko Nakano

Abstract

Onomatopoeia, which is indispensable for communication, has repeatedly changed its meaning and increased the number of vocabularies with the passage of history. Onomatopoeia is very important in early childhood education to develop children's language development and expressiveness. This time, I focused on onomatopoeia in children's songs and tried to study its effects and roles from music analysis. We hope that it will help students who want to become childcare workers understand onomatopoeia and help them communicate with their children.

Keywords: Singing Expression, Language, Vocalization

1、はじめに

保育科のスクーリングにおける声楽の授業において子どもの歌に多く携わらせてもらっている。子どもの歌には、行事の歌、季節の歌、生活の歌など子どもの日々の活動における様々な歌がある。その中でリズムや、言葉のニュアンス等で音楽を生き生きとさせているのがオノマトペである。オノマトペとは生活における様々な音や、様子を言葉で表したものであるが、その数は計り知れない。実際私たちは会話の中でもオノマトペを多用し、コミュニケーションには欠かせないものである。またオノマトペの持つ言葉の意味によって、多くの意味を感じ、理解することができる。今回オノマトペが子どもの歌においてどのような効果をもたらしているのか検証し、今後の授業に活かしていきたいと考える。保育士を目指す学生がオノマトペという効果的な言葉に着眼することにより、子どもとのコミュニケーションや、教育活動の手助けとなることを願いたい。

2、オノマトペとは

まずはオノマトペについて述べておきたい。その起源は古代ギリシャで言葉を造ること、名前を造ることを示していたとされており、オノマトペという言葉はフランス語で擬音語を表す「onomatopée」が語源であり、日本では「ワンワン」「オギャー」のような人間、動物の鳴き声や、物音などの実際に鳴っている音を言葉で表した擬音語と、「ドキドキ」「ワクワク」のような人間や物事の様子で、実際には鳴っていない音を言葉で表した擬態語の意味である。オノマトペは擬音語と擬態語のことを言うが、細かく5種類に分類できる。擬音語は人間や動物の声を言葉で表した擬声語、自然界の音や物音を言葉で表した擬音語の2種類に分類できる。擬態語は人間や動物など生物以外の動作を言葉で表した擬態語、生物の状態や様子を言葉で表した擬容語、人間の心理や感覚を言葉で表した擬情語の3種類に分類できる。しかしオノマトペは様々なニュアンスがあり、厳密な分類は難しいと考える。分類の例を表に示す。

オノマトペの種類について

| | | |
|-----|--------------------------------|------------------------------|
| 擬音語 | 擬声語 人間や動物の声を言葉で表したもの | オギャーオギャー、エンエン、ワンワン、ニャーニャー など |
| | 擬音語 自然界の音や物音を言葉で表したもの | ゴーゴー、しとしと、ビュンビュン など |
| 擬態語 | 擬態語 人間や動物など生物以外の状態を言葉で表したもの | ピカピカ、さらさら、つるつる など |
| | 擬容語 生物の状態や様子を言葉で表したもの | とろとろ、のっしのっし、ぞろぞろ など |
| | 擬情語 人間の心理や感覚を言葉で表したもの | わくわく、ドキドキ、ぎらぎらにここに など |

オノマトペの日本における歴史に関して最古の記録としては奈良時代に書かれた日本最古の歴史書「古事記」(712年)に国創りの様子が書かれている。その中でイザナミノミコトと、イザナギノミコトが国を創るため天の沼矛を用いて海をかき混ぜるとき「こをろこをろ」という音を立てたという記述があり、この擬音によってこの時代にはオノマトペが存在していたと考えられる。また時代を経てオノマトペは変化をしている。例えば現代の笑い声は「あっはっはっはっは」に対して、室町時代江戸時代の記録には「カラカラ」と記されている。また現代の犬の鳴き声は「ワンワン」、猫は「ニャーニャー」に対して、平安時代の記録では犬は「ビヨ」、猫は「ネウネウ」と記されている。鳴っている音は変わらないが、時代によって音を言葉で表現する方法は変化をしている。

日本語のオノマトペが時代によって変化したことを述べたが、日本と外国のオノマトペ

の表現も違う。犬の鳴き声を例に挙げる。

| 犬の鳴き声 | | |
|----------|-----------|------------|
| 日本語 ワンワン | 韓国語 モンモン | フランス語 ワフワフ |
| 英語 バウバウ | ロシア語 ガフガフ | |

国が異なっても犬の鳴き声は変わらない、つまり出ている音は同じでも、その土地や、文化、また聞く人によって、その聞こえ方や表現が違うのがわかる。

このようにオノマトペは昔から私たちの生活に根付いたものであり、コミュニケーションの道具として用いられてきた。それ自身が具体的な意味を持っているため、音、シチュエーションなど言葉でのコミュニケーションに非常に便利なものである。

3、子どもの歌におけるオノマトペの役割

平成 29 年改訂平成 30 年施行の幼稚園教育要領第 2 章「表現」より

【感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。】

- ねらい
- (1) いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。
 - (2) 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。
 - (3) 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。

となっている。擬音・擬声語は、ドイツでは音を絵のように描いたものと捉えられている。音を言葉の直接的な感覚で言い表したものである。子どもの会話の中ではオノマトペが多用され、子どもは大人よりも敏感に音をとらえる能力があるとされているため、自然と直感的に言葉で表現する。そしてそれは素直に音を描写したもので、適切に表現されていることが多い。そしてお互いにそれを理解し、自分の表現として様々なオノマトペを会話の中で用いてコミュニケーションをとっている。オノマトペはそれ自身が意味を持ち、具体的なイメージを思い描くことができることが特徴である。子どもの音に対する敏感な能力はオノマトペからイメージを得るのも優れていると考える。

音の絵という捉え方をわかりやすく実践しているのは、マンガの世界ではないだろうか。マンガではオノマトペは欠かせないものとなっている。戦いのシーンで二人が睨みあっている場面が描かれているときに「ヒューン」と風の音を書いてあるだけで、二人の空気、その緊迫感を読み取ることができる。つまりはキャラクターのセリフがなくても、その状況を表現する効果音として、オノマトペがあることによって、その場面の緊張感や、雰囲気を感じ取ることができ、内容を理解することができる。

子どもの歌においても同じことがいえる。近畿大学九州短期大学のピアノ教本、声楽教本(平成31年改訂)にはピアノ教本に91曲、声楽教本に24曲収録されている。その中でどちらの教本においても約半数の曲の歌詞の中にオノマトペが用いられている。

近畿大学九州短期大学 ピアノ教本 子どもの歌オノマトペ一覧

| | |
|------------------|--|
| 1 かえるの合唱 | クワックワックワッ、ケロケロケロケロ |
| 2 虫の声 | チンチロチンチロチンチロリン、 リンリンリンリンリーンリン、 キリキリキリキキリキリキリキリ、 ガチャガチャガチャガチャ、 チョンチョンチョンチョンスイッチョン |
| 3 やきいもグーチーパー | グー、チー、パー、グーチーパー |
| 4 はをみがきましょう | シュッシュッシュッ、ころころ |
| 5 手をたたきましょう | タンタタタン、アッハッハ、ウンウンウン、 エンエンエン |
| 6 ぶんぶんぶん | ぶんぶんぶん、きらきら |
| 7 まつぼっくり | ころころ |
| 8 とんとんとんとんひげじいさん | とんとんとんとん、キラッキラッキラッキラッ |
| 9 おててを洗いましょう | きゅきゅきゅきゅ、ぽんぽんぽん |
| 10 あくしゅでこんにちは | てくてく、もにやもにや |
| 11 かたつむり | でんでん |
| 12 先生とおともだち | ギュギュギュ、メツメツメツ |
| 13 こたりのうた | ぴぴぴぴぴ、ちちちちち、ぴちくりぴい |
| 14 めだかの学校 | ついつい |
| 15 とけいのうた | コチコチカッチン |
| 16 あめふりくまのこ | ちよろちよろ |
| 17 たなばたさま | さらさら、きらきら |
| 18 おばけなんてないさ | かちかち |
| 19 つき | まんまるい |
| 20 とんぼのめがね | ぴかぴか |
| 21 山の音楽家 | キュキュキュキュキュ、ピピピピピ、 ポコポンポンポン |
| 22 どんぐりころころ | ころころ、どんぶりこ |
| 23 たき火 | ピーぶー |

| | |
|-------------------|--|
| 24 あわてんぼうのサンタクロース | リンリンリン、ドンドンドン、チャ・チャ・チャ、 シャランラン、ドンシャラン |
| 25 豆まき | ぱらっぱらっぱらっぱらっ |
| 26 雪のペンキやさん | ちらちら |
| 27 思い出のアルバム | ぽかぽか |
| 28 一年生になったら | ぱっくんぱっくん、どっしんどっしん、 わっははわっはは |
| 29 おはなし | パチパチパチパチ |
| 30 アイアイ | アイアイ |
| 31 犬のおまわりさん | ニャンニャンニャニャーン、ワンワンワンワン |
| 32 おうま | ぽっくりぽっくり |
| 33 おつかいありさん | こつつんこ、ちよんちよん |
| 34 おんまはみんな | ぱっぱか、ちよんぼりちよろり |
| 35 かわいいかくれんぼ | ぴよこぴよこ、だんだん、ちよんちよん、 よちよち |
| 36 森のくまさん | スタコラサッサッサのサ、 トコトコトッコトッコト、ララララララララ |
| 37 かもつ列車 | シュッシュッシュッ、ガチャン |
| 38 バスごっこ | ギュッギュッギュッ |
| 39 線路は続くよどこまでも | ランランランラン |
| 40 せっけんさん | ぶくぶく |
| 41 おもちゃのマーチ | やっどこやっどこ、ラッタッタ、ぽっぽ、 パンパラパン |
| 42 おもちゃのチャチャチャ | チャチャチャ、キラキラ、すやすや、 トテチテタ、メエメエ、ニャー、ブースカ |

近畿大学九州短期大学 声楽教本 オノマトペ一覧

| | |
|------------------------|----------------------------------|
| 1 花 | うらら、おぼろづき |
| 2 はるがきて | ぼんやり |
| 3 だから雨ふり | そろそろ、すっかり |
| 4 きのこと | ノコノコ、るるるる、ニョキニョキ |
| 5 やきいもグーチーパー | グー、チー、パー、グーチーパー |
| 6 雪 | こんこ、ずんずん |
| 7 クリスマスのうたが きこえてくるよ | ヨロレイヨロレイ、ピョンピョン ドッシンドッシン、んーんー |

| | |
|-------------|---|
| 8 うたえバンバン | バンバン、アイアイアイ、グングン、ララ、カッカカッカ、プンポン、ドカンと、グーン、ホカホカ |
| 9 にんげんっていいな | ほかほか、でんぐり、びりっこ、ポチャポチャ |
| 10 一年生になったら | ぱっくんぱっくん、どっしんどっしん、わっははわっはは |
| 11 ほたるこい | ぴかぴか、ぽんぽん |
| 12 さんぽ | どんどん、でこぼこ、ぶんぶん |

例えば「虫の声」では様々な虫の鳴き声を言葉で表現して、その言葉を音として聞くことにより、簡単にその虫の姿を想像、理解することができる。また「はをみがきましょう」では“シュッシュッシュッ”というオノマトペが、音楽の歯切れのよいリズムにのせて歌われる。子どもたちが音楽にのって手を動かすように歌われることにより、子どもたちの生活習慣の学びの様子が浮かんでくる。この現状からも子どもの言葉の発達、想像力、表現力の育成、生活習慣の確立など様々な面においてオノマトペが効果を発揮していることは明確である。

ではオノマトペが子どもの歌の中でどのような役割を果たしているのか「おもちゃのチャチャチャ」、「ことりのうた」、「きのこ」を例にとって楽曲分析を行い、詳しく検証していきたい。

「おもちゃのチャチャチャ」 野坂 昭如 作詞 吉岡 治 補作 越部 信義 作曲
4分の4拍子 ハ長調 J=120 明るく、楽しく

1. ※おもちゃのチャチャチャ

おもちゃのチャチャチャ
チャチャチャおもちゃの
チャチャチャ

そらにキラキラおほしさま
みんなすやすやねむるころ
おもちゃははこをとびだして
おどるおもちゃのチャチャチャ

2. ※繰り返し

なまりのへいたいトテチテタ
ラッパならしてこんばんは
フランスにんぎょうすてきでしょう
はなのドレスでチャチャチャ

3. ※繰り返し

とんぼみたいなヘリコプター
ぐんとはやいなジェットきは
サイレンならせばはっしやです
うちゅうロケット チャチャチャ

4. ※繰り返し

きょうはおもちやのおまつりだ
みんなたのしくうたいましょ
こひつじメエメエ こねこはニヤー
こぶたブースカ チャチャチャ

5. ※繰り返し

そらにさよならおほしさま
まどにおひさまこんにちは
おもちゃはかえるおもちゃばこ
そしてねむるよチャチャチャ

題名でもある「おもちゃのチャチャチャ」の“チャ・チャ・チャ”とは、新音楽辞典（音楽之友社）によると「ラテン系の踊で、1953年にエンリケ・ホマリンがマンボから作り出したといわれる。速い2/4拍子または4/4拍子。マンボが〈1, 2, 3, 休〉と数えるのに対して、チャ・チャ・チャは〈1, 2, チャ-チャ, チャ〉となる。」とある。

リズム譜にしてみると次のリズムになる。



前奏はチャチャチャのリズムから始まり、夜におもちやが動き出した様子や、踊っている様子を想像させる。その後歌によって「おもちゃのチャチャチャ」の歌詞をチャチャチャのリズムで歌う。これは各節の最初に繰り返され、楽しいリズムの様子が伺える。その後のテキストはチャチャチャのリズムではない4/4拍子で書かれており、冒頭に戻りチャチャチャのリズムが再現されることにより、さらに軽やかになって聞こえる。2節にある“トテチテタ”とは日本語オノマトペ辞典（小学館）によると「ラッパを吹き鳴らす音」とある。ま

た言葉の音の印象により鉛の兵隊のぎこちないなく滑稽な動きも想像できる。4節の一番の盛り上がりお祭りのシーンでは動物たちの鳴き声のオノマトペが連続し、どんちゃん騒ぎのような楽しいお祭りの様子が描かれている。それとは対照的に5節のテキストには擬音のオノマトペがなく、お祭りが終わり静かになった様子が伺える。そして再びチャチャチャのリズムが呼び起され、物語が締めくくられる。

「ことりのうた」

与田 準一 作詩 芥川 也寸志 作曲

4分の4拍子 ニ長調 ♩=104 明るく

1. ことりはとっても うたがすき
かあさんよぶのも うたでよぶ
びびびびび ちちちちち
びちくりびい

2. ことりはとっても うたがすき
とうさんよぶおも うたでよぶ
びびびびび ちちちちち
びちくりびい

子どもの歌の特徴でもある付点8分音符と、16分音符の連続のリズムで全体が構成されていて、鳥がリズムカルで、身軽に、小刻みに動く様子や、小鳥の親子がほほえましく会話をしている様子が描かれている。



テキストは2節からなっており、1行目、2行目は2小節が1フレーズとなっているが、3行目4行目は1小節ずつのフレーズとなっている。ここは小鳥と、親鳥の会話の場面となっており、“びびびび”と小鳥が鳴くのに対して、親鳥が“ちちちちち”と答える。そして子と親の声が重なり“びちくりびい”と、子どもと、親の仲良しの光景が見て取れる。



「きのこ」

まど みちお 作詞 くらかけ 昭二 作曲

4分の2拍子 へ長調 J=132

1. き き きのこ
き き きのこ
ノコノコ ノコノコ
あるいたりしない
き き きのこ
き き きのこ
ノコノコ あるいたりしないけど
ぎんのあめあめふったらば
せいがのびてく るるるるるるる
いきてる いきてる
いきてる いきてる
きのこはいきてるんだね

2. き き きのこ
き き きのこ
ニヨキニヨキ ニヨキニヨキ
うでなんかださない
き き きのこ
き き きのこ
ニヨキニヨキ うでなんかださないけど
ぎんのあめあめふったらば
かさがおおきく なるなるなるなる
いきてる いきてる
いきてる いきてる
きのこはいきてるんだね

「き、き、きのこ」の8分音符、と8分休符の組み合わせにより、スタッカート気味に短く歌われるが、きのこの真似をした子どもがあちらこちらにいるような歌い出しで、ノコノコとは周囲とは無頓着に歩く様のことをいうが、動かずじっと成長の時を待っている様子を描いている。



「ぎんのあめあめふったらば」からこれまでリズムカルの音楽から、横に流れるレガートな音楽に変わる。恵みの雨、成長の雨の流れを象徴している。再びリズムカルな音楽に変わり、「るるるるるるる」で半音の上行形の旋律となる。この歌詞“る”の連続で、意味はないが、音から得られるイメージによって、きのこの成長エネルギーが伝わる不思議な言葉である。



子どもが転んで痛がっているときの「いたいいたいのとんでいけ」のような魔法の掛け声のように、子どもが成長し、大きくなるのをイメージできる言葉であると考えます。

4. おわりに

今回の子どもの歌におけるオノマトペについて研究し、楽曲と言葉が綿密に結びついてることを再認識した。オノマトペは言語学、心理学、音楽等の幅広い分野につながっており、様々な視点から探求できる。保育士を目指す学生に、子どもとのコミュニケーションツールとして、また子どもの表現を引き出すアイテムとして、オノマトペというものをとらえてもらいたいと考える。また子どもの言語発達を知る上でも重要な要素であることは言うまでもない。スクーリングにおいてもそのきっかけとなるような授業を展開していきたい。

参考文献

- 池内友次郎(1977)『新音楽辞典(楽語)』音楽之友社
- 小野正弘(2007)『日本語オノマトペ辞典』小学館
- 鷺田清一(2011)『「ぐずぐず」の理由』KADOKAWA
- 藤野良考(2013)『脳と体の動きが一変するひみつの「かけ声」』青春出版社
- 川原繁人(2015)『音とことばのふしぎな世界—メイド声から英語の達人まで』岩波書店
- 山口仲美(2015)『擬音語・擬態語辞典』講談社
- 川原繁人(2017)『「あ」は「い」より大きい!?!—音象徴で学ぶ音声学入門』ひつじ書房
- 窪菌晴夫(2017)『オノマトペの謎—ピカチュウからモフモフまで—』岩波書店
- 厚生労働省(2017)『保育所保育指針』
- 厚生労働省(2017)『幼稚園教育要領』

参考・引用楽譜

- 久世安俊(2017)『音楽(声楽教本)』近畿大学九州短期大学
- 平松愛子(2017)『音楽(ピアノ教本)』近畿大学九州短期大学